

甲斐市立竜王小学校 学校関係者評価書

令和5年2月14日（火）

甲斐市立竜王小学校 学校関係者評価委員会作成

学校関係者評価委員会

実施日：令和5年2月14日（火）

参加者：学校評議員：森澤ひとみ・篠原美代子・碓井 和幸・萩原 健一

P T A：会長 手塚 友巳・副会長 中村あずみ

学校側：校長 進藤 雅一・教頭 平沼 公香・生指 春日 秀一

I 学校側から提案された内容

〈教職員自己評価書について〉

- 1 達成状況について
- 2 改善策について
- 3 まとめ

II 協議された主な内容

1 全体の概要について

（1）教職員自己評価について

- ほとんどの設問で肯定的評価が90%以上であり、教職員自己評価が良好であること。肯定的な評価は変わらないが、B評価が増えた。教職員の質の向上を求める傾向が強くなり、評価が厳しくなっていること。

（2）小学生アンケートについて

- 「学校は楽しいですか」の肯定意見が約7%アップし、96.5%となり、多くの児童が学校生活に満足している状況であること。

（3）保護者アンケートについて

- 「お子さんにとって学校は楽しいところだと思う」の肯定意見が約92.3%であり、好意的な評価であること。

2 学校教育目標・学校経営について

- 学校教育目標をもとに共通理解をもって学校教育活動がなされ一定の成果を得ている。より効果的・効率的な学校経営や教育活動を目指し、カリキュラムマネジメントを進めることと、学校行事等の精選を図ること。
- 多様な子供たちを誰一人取り残すことがないよう、学校体制で取り組むこと。

3 学校運営について

- 教職員の「危機管理マニュアル」の活用に関し、自覚が高まってきている。今後も有事を想定したマニュアルの見直しと充実を図っていくこと。また、危機管理に対する保護者への周知や啓発をさらに進めること。
- 校内研究について、ICTを活用して主体的・対話的で深い学びの実現を図るため、今後も日々の授業改善に努め、指導力の向上につなげていくこと。

- 業務の効率化に向け、学年の業務の調整や年間行事の配置など、さらに改善を図っていくこと。

4 学習指導について

- 学年で協働してきたことで、授業力の向上や学びの意欲喚起、基礎・基本の定着を図る授業の充実を図ることができたこと。さらなる授業改善に向け、教材研究の時間確保が課題であること。
- 単元を見通した中で観点別評価規準を明確にし、指導と評価の一体化を目指した授業を行えるようにすること。
- 家庭学習は定着してきているが、今後も「家庭学習の手引き」などを活用し、保護者と連携を図りながら家庭学習のさらなる充実を図ること。

5 生徒指導について

- 「明るく元気な竜の子15箇条」を基盤に、規律ある生活習慣や学習習慣の構築が竜王小の伝統として、教職員だけでなく、児童にも引き継がれていること。今後、改良に向けて検討すること。
- キャリア教育に関わって、日々の係活動や清掃活動等を通して、また、外部人材を積極的に活用したり、校外学習やオンライン学習の取組を行ったりして、社会参画意識を高めていくこと。
- 児童が安心安全に登校できる、居場所のある学校・学級づくりを進めることで、問題行動に繋がらないよう、日々の人間関係づくりを行っていくこと。児童の問題行動については、早期発見に努め、組織的な対応ができるよう、各機関と連携しながら解決にあたっていくこと。

6 地域との連携について

- コロナ禍の中、今年度も実施できない事業があったが、保護者や地域住民による登下校の見守り等で協力を得ることができたこと。
- 学校からの情報発信として、安心メールとホームページを積極的に活用することで開かれた学校としての説明責任を果たしていくこと。
- 運動会や150周年記念式典等を実施することができた。PTA諸行事の復活も望まれていることから、これまでの実績を生かしつつ、PTA主催行事の取組を継続し、活性化を図る策を探っていくこと。
- 「竜小協力者会議」等の地域連携事業については、2月に参会して実施することが叶った。次年度以降も確実に実施し、意見交流できるようにすること。

7 学校の特色に関して

- 本校の特色について、継承・改善しながら組織的に取り組んでいくこと。

8 創甲斐教育について

- 創甲斐教育をもとに、「ほめ言葉のシャワー」を本校の特色ある取組として、クラスで工夫しながら取り組んでいること。
- 各教科における言語活動の充実に向けた取組について、研究結果を再確認していきながら、継続して取り組んでいくこと。
- 運動習慣づくりの取組についての啓発をさらに進めていくこと。

〈学校関係者評価書〉

1 全体評価

- 教職員が一丸となって教育目標の具現化に努めていることがわかった。A・B合わせると数値的に昨年度と同じではあるが、Bの数値が多くなっている。これは教職員が安易に評価していることではないことを表している。今後の伸びしろがあるように感じられ、積極的な評価でよい。
- コロナ禍で、日々、難しいことが続いている。評価で良い結果が出たことも教職員の努力の賜だと思う。意識改革はとても難しいが、取組を進めてほしい。

2 観点ごとの評価結果

I 学校教育目標・学校経営について

- P D C Aサイクルによる教育活動を進めていってほしい。
- 地域社会と支援体制を組みながら、協働して、効果的・効率的な教育活動を推進してほしい。

II 学校運営について

- 他地区のコミュニティ・スクールの取組がよいと感じている。様々な人が学校と関わり合い、多くの人が教職員と交流を持ちながら教育活動が行える体制が作れるとよい。
- ベテランと若手の教職員が協働しながら、日々の教育活動に邁進してほしい。
- 働き方改革が叫ばれるが、きめ細かな職務の様子を見ていて、教職員の生活が心配になる。多様な子どもたちに対応するための人材確保が難しいとはいえ、市教委とともに対策を考えてほしい。

III 学習指導について

- 児童とふれあう時間を確保するために、積極的に外部の人材を活用するとよい。
- 甲斐市の人材バンクの活用等、来年度はさらに広げていきたい。

IV 生徒指導について

- 今後も保護者や地域とのコミュニケーションを深め、支援体制を整えていってほしい。

V 地域との連携について

- 地域にとって子供たちは「宝」である。学校の教育活動に関わりたいと思っている人も多い。学校、保護者、地域全体で学校を盛り上げてほしい。
- 地域の様々なプロフェッショナルから学べるキャリア教育ができるとよい。

VI 学校の特色について

- 竜王小学校のよさを全教職員で共通理解し、改善・継承していったほしい。

VII 創甲斐教育について

- 言語能力の向上、よさを見取る教育活動の推進、体力づくりの取組の充実を推進していったほしい。

3 今後の課題として確認されたこと

- カリキュラムマネジメントによる確実なPDCAの実施と教育課程の見直し
- 学校体制で取り組む特別支援教育
- 危機管理マニュアルの的確な運用と改良
- さらなる業務効率化による働き方改革
- 校内研究とリンクした日々の授業改善
- 観点別評価規準を設定した指導と評価の一体化
- 家庭学習と連携した学びの啓発
- 社会参画意識を高めるキャリア教育の実施とキャリアパスポートの効果的な活用
- 安心安全な学校・学級づくりの継続と、問題行動の早期発見・早期対応のための組織連携
- 「明るく元気な竜の子15箇条」の改良
- 安心メールと学校ホームページのより効果的な活用
- PTA主催行事の取組の継続と改良復活
- 協力者会議を中心とした地域との連携の活性化
- 長所を伸ばし、短所を改善することによる特色化
- 児童主体の児童会活動や読書活動の継続と発展
- 創甲斐教育の具現化のための教職員研修による一貫した指導体制の確立
- よさのみとりを進める「ほめ言葉のシャワー」の改良
- 運動習慣を身に付けるための活動と家庭への啓発

※特記事項

- 特になし